

nektar



IMPACT LX MINI

日本語ユーザーガイド
www.hookup.co.jp

目次

イントロダクション	4
同梱内容.....	4
Impact LX Miniの機能.....	4
システム条件.....	4
Impact LX Mini概要	5
さあ、始めましょう	6
接続と電源	6
Nektar DAWインテグレーション	6
汎用コントローラーとしての利用.....	6
オクターブとパート2ボタン、ジョイスティックとフットスイッチ	7
MIDIソフトウェアの操作.....	8
インストールメント/インターナルモード	8
グローバルコントロール	9
アルペジエーター / ノートリピート	10
オン・オフ (On/Off) とファンクション (Function)	10
設定と操作 - ページボタン、ノブ、パッド、MIDIクロック同期.....	11
ドラムパッド	12
パッドマッピング (Pad Maps)	12
パッドラーン (Pad Learn)	12
パッドのMIDI情報設定.....	12
ベロシティカーブ.....	12
クリップとシーン (Clips/Scenes) ボタン.....	12
パッドのバックライトカラー	13
パッドマッピングのデフォルト設定	13
設定 (Setup) メニュー	14
コントローラーのMIDI情報設定	14
コントロール情報 (CC) 設定 - Control Assign - C1	14
プログラムチェンジ設定 - Program Assign - D1	14
MIDIチャンネル設定 - MIDI Ch Assign - D#1.....	14
パッドラーン機能 - Pad Learn - E1.....	15
パッドマッピングの保存 - Save Pad Map - F1.....	15
パート2機能のフットスイッチ操作 - FC Trig Part 2 - F#1.....	15
パート2ボタン設定 - Part 2 - Octave / Chan. / Transp. / Layer - G1 / G#1 / A1 / A#1.....	15
グローバル機能とオプション設定	16
グローバルMIDIチャンネル - Global MIDI Ch - C2.....	16
キーボードベロシティカーブ - Velocity Curve - C#2.....	16
パッドベロシティカーブ - Pad Vel. Curve - D2.....	16
パニック (オールノートオフ) - Panic - D#2.....	16
プログラムチェンジ - Program - E2	17
メモリダンプ - Dump - E2.....	17
省電力モード - Low Power Mode - F2	17
テンポ設定 - Set Tempo - G2.....	17
USBポート設定 - Port Setup - A2	17
ファクトリーリストア	18
DAW設定ガイド	19
BitWig	19
Cubase / Nuendo	21
Digital Performer	23
FL Studio	25
Garageband.....	27
Live	28
Logic.....	32
Reaper	34
Reason.....	36
Sonar	38
Studio One	40
DAWインテグレーションを使用しないトランスポート設定 (MMC)	42
ProTools	43

本製品を安全にご使用頂くために、水分や食物などから遠ざけ、動作に影響を及ぼす要素の混入防止に努めてください。機器の外装保護の観点でもそのような環境でのご使用は避けてください。また、本ガイドで解説する範囲内の用途でご使用ください。

注意：本製品は、クラスBのデジタル機器としてのFCC規制のPart 15への適合検査をパスしています。この制限によって、本製品は住宅に設置する際に有害な干渉を防止する適切な保護を提供するよう設計されています。本製品を指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こし、電波エネルギーを放射する可能性があります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。本製品の使用中、ラジオやテレビの受信において干渉が生じた場合、次のいずれかの方法をお試しください。

- 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- 装置と受信機の距離を離します。
- 受信機が接続されているものとは別回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験のある電気または電波技術者に相談します。



Impactのファームウェア、ソフトウェア及びマニュアル等の書類はNektar Technology, Incの財産であり、ライセンス同意によりユーザーに提供されます。日本語に関する情報は、株式会社フックアップの資産であり、Nektar Technology, Incの許可を受けて作成しています。

© 2021 Nektar Technology, Inc. / HookUp, Inc.
NektarはNektar Technology, Inc. の登録商標です。

製品に関する全ての記述及び仕様は予告なく変更することがあります。

クリーニングとメンテナンスについて

- 修理に関する全ての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをご利用ください。
- クリーニング用の化学物や研磨剤は外装に損害を与える可能性があります。

イントロダクション

この度は、Nektar Impact LX Miniをお求め頂き、誠にありがとうございます。

Impact LX Miniには、ピッチバンドやモジュレーションをコントロールするためのジョイスティック、フットスイッチ端子（フットスイッチは別売）、パート2、アルペジエーター／リピート、ベロシティ対応の8つのパッド、そして対応DAWのハンズオンコントロールをこれまでにない高いレベルで実現するNektar DAWインテグレーションなど、優れた機能が用意されています。Impact LX Miniをより効果的にお使いいただくために、このガイドを一通りご覧ください。

同梱内容

Impact LX Miniには、以下のアイテムが同梱されています：

- Impact LX Miniコントローラーキーボード本体
- 印刷マニュアル（英語）
- マイクロ USBケーブル
- 1/8"オス to 1/4"メス変換アダプタ
- 付属ソフトウェアのライセンスコードが記載されたカード

同梱物が不足あるいは破損している場合、お手数ですがご購入店あるいは弊社サポートまでご連絡ください。

<https://hookup.co.jp/support/>

Impact LX Miniの主な機能

- ベロシティ対応の25鍵のミニサイズキーボード
- 4つのベロシティカーブ（ソフト、デフォルト、ハード1、ハード2）+ 3つの固定ベロシティを選択可能
- 8つのベロシティ対応、LEDバックライト付パッド
- ピッチバンドとモジュレーションコントロールを扱うジョイスティック
- 1基のボリュームポッド
- 8基のポット
- 1つのトグルボタン（Nektar DAWインテグレーションで使用）
- 7つのトランスポートボタン
- “Shift”ボタンによる追加機能へのアクセス、計14のボタン機能を提供
- オクターブシフトボタン（アップ／ダウン、LED照明付き）
- パート2LEDボタン（アップとダウン、キーボードのリアルタイムシフト、MIDIノートレイヤーなど）
- インストゥルメント、インターナルボタン
- 1/8"フットスイッチ端子（1/4"標準ジャック変換アダプタ付き）
- Apple Lightning - USB 3カメラアダプタ（別売）などを介し、iOSデバイスとの接続に対応
- キーボードとドラムパッドそれぞれに対して装備されたアルペジエーター／ノートリピート
- Nektar DAWインテグレーション

システム条件

Impact LX Miniは、USBクラスコンプライアントのMIDI機器として、この規格をサポートするWindowsまたはmacOS環境で扱えます。DAWインテグレーションに関しては、連携するDAWの動作条件に従います。

*システム条件内であっても、あらゆる環境下での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境については、サポート対象外となります。

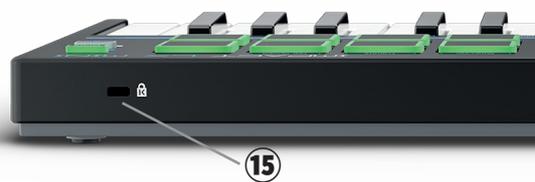
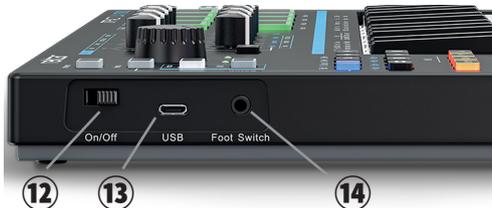
*DAWインテグレーションは、お使いのDAWソフトウェアのシステム条件もあわせてご確認ください。

IMPACT LX Miniの概要

Impact LX Miniの各部呼称とその概要です。



- ① **モード選択ボタン**: Impact LX Miniの操作モード: Instrument(インストゥルメント)、Internal(インターナル)を切り替える際に使用します。また、“Shift” + “Internal”ボタン操作で設定モードに入ります。
- ② **アルペジエーターボタン**: アルペジエーター／ノートリピート機能のオン／オフ(On/Off)と、そのコントロールへのアクセス(Function)に使用します。
- ③ **トランスポートボタン**: 7つのボタンは、DAWインテグレーション時のトランスポート(再生、停止、録音)などの操作に使用します。これらのボタンは、“Shift”ボタンとの併用で別の機能にアクセスします。
- ④ **オクターブシフト(Oct)とパート2(Part 2)ボタン**: 2つのオクターブボタンは、実際に鍵盤で演奏可能な音域を設定する際に使用します。2つのパート2ボタンは、コンパクトなImpact LX Miniの演奏表現を豊かにする特別な機能です。数オクターブ分を一気に上下する、瞬間的にトランスポートする、別のMIDIチャンネルへ切り替える、といったことが瞬時に行えます。“Shift”ボタンとの併用で、トランスポートボタンとして使用することも可能です。
- ⑤ **ジョイスティック**: ピッチバンド(左右)と2つのモジュレーション(上下)操作に使用します。
- ⑥ **鍵盤**: ペロシティ対応のキーボードです。各種設定時のスイッチとしても使用します。
- ⑦ **ボリューム**: 主にDAWのミキサーでチャンネルボリュームの調整に使用します。
- ⑧ **ロータリーノブ**: 8基のノブは、プラグインなどのMIDIパラメーターの操作に使用します。
- ⑨ **Page(ページ)ボタン**: 右横に並ぶ8基のエンコーダーでコントロールするMIDIパラメーターを切り替えます。
- ⑩ **ドラムパッド**: 8つのペロシティ対応のパッドです。ドラム音源の演奏以外に、MIDIボタン／スイッチとしても機能します。
- ⑪ **Clips(クリップス)とScenes(シーン)ボタン**: アルペジエーターや特定のDAWインテグレーションのパッドに関する機能にアクセスします。
- ⑫ **Power On/Off(電源)スイッチ**: 本機の電源スイッチです。
- ⑬ **USB端子**: コンピューターと接続するためのミニサイズのUSB端子です。このポートでコンピューターとのデータ転送とコンピューターからの電源供給を受けます。
- ⑭ **Foot Switch(フットスイッチ)端子**: 別売フットスイッチを接続するための3.5mm(1/8”)端子です。付属の変換アダプタを使用することで、標準(1/4”)プラグのフットスイッチと接続可能です。ペダルの極性は、本機の電源投入時に自動で検知されます。通常、サスティペダルに関するMIDI情報を扱います(MIDI設定の変更可能)。
- ⑮ **Kensington(ケンジントン)ロック**: 市販の防犯用ケンジントンロックに対応するポートです。



さあ、始めましょう

接続と電源

Impact LX Miniは、USBクラスコンプライアントに準拠したMIDI機器です。そのため、特別なドライバソフトウェアのインストールを必要とせず、コンピューターとのUSB接続を行うだけで動作します。また、動作に必要な電源も、コンピューターのUSBポートから供給を受けます。

接続方法は簡単です：

- サステインペダルを使用する場合、電源投入前にImpact LX Miniのフットスイッチ端子に接続しておきます。
- 付属のUSBケーブルを使用し、Impact LX Miniとコンピューターを接続します。
- 電源スイッチをオンにします。

初めてコンピューターに接続した場合、本機の認識に少し時間を要します。

Nektar DAWインテグレーション

お使いのDAWソフトウェアがNektar DAWインテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアをご用意しています。以下のリンク先よりダウンロードの上、インストールを行ってください。これにより、シンプルな設定で高度なDAWコントロールが実現します。

最新版のソフトウェアを入手するには、Nektar社ウェブサイト(英語)での製品登録が必要となります：

www.nektartech.com/registration

すでにNektarアカウントをお持ちの場合はサインインを行ってください。

重要なお知らせ: 設定に関する情報はウェブページ、あるいはダウンロードしたフォルダ内にPDFファイルとして含まれます。

Impact LX Miniを汎用のMIDIコントローラーとして利用する場合

Impact LX Miniは、汎用MIDIキーボードとして、macOS、Windows、iOS環境でお使いいただけます。いくつかのソフトウェアでは追加のファイルをコンピューターにインストールすることで連動することが可能となるものもあります。

オクターブとパート2ボタン、ジョイスティックとフットスイッチ

Impact GX Miniの鍵盤はペロシティに対応しており、ダイナミックな演奏が可能です。ペロシティカーブは、演奏スタイルに合わせて4種類が用意されています。また、これとは別に、3段階の固定ペロシティを選ぶことも可能です。Impact LX Miniのペロシティカーブ設定の手順や詳細についてはこのガイドの16ページに記載しています。

オクターブ(Octave)とトランスポーズ(Transpose)シフト

鍵盤の左横には、キーボードの演奏音域を変更するためのボタン、“Octave”と“Part 2”が用意されています。

- 左側の“Oct▼”ボタンを押すことで、キーボードの音域が1オクターブ下がります。
- 右側の“Oct▲”ボタンを押すことで、キーボードの音域が1オクターブ上がります。
- “Shift”ボタンを押しながら、左側の“Part 2▼”ボタンを押すことで、キーボードの音域が半音下がります。
- “Shift”ボタンを押しながら、右側の“Part 2▲”ボタンを押すことで、キーボードの音域が半音上がります。
- ボタン操作を繰り返すことで、そのボタン機能に応じて音域をさらに上下させることができます。
- 2つの“Oct”ボタンの同時押しでオクターブが、“Shift”と2つの“Part 2”ボタンの同時押しでトランスポーズが、それぞれデフォルト状態に戻ります。

最大で下4オクターブ/上5オクターブまでシフトすることが可能です。

オクターブ範囲	LEDカラー	オクターブ範囲	LEDカラー
0	橙 (Oct+ とOct-の両方)	+1	橙 (Oct+ のみ)
-1	橙 (Oct-のみ)	+2	緑 (Oct+ のみ)
-2	緑 (Oct-のみ)	+3	赤 (Oct+ のみ)
-3	赤 (Oct-のみ)	+4	黄 (Oct+ のみ)
-4	黄 (Oct-のみ)	+5	橙 (Oct+ のみ)

パート2 (Part 2)

オクターブボタンの右隣には、さまざまな操作に使用できる「パート2」ボタンが用意されています。ボタンを押すと、あらかじめ定義された設定が適用され、離すと元の設定に戻ります。このパート2機能によって、数オクターブ分を一気に上下する、瞬間的にトランスポーズする、別の MIDI チャンネルへ切り替える、といったことを瞬時に行えます。

ボタンを押している間だけ機能するのではなく、設定のオン/オフを繰り返す「ラッチ」モードに設定する場合は、一方のパート2ボタンを押しながらもう一方を押します(ラッチモード時、ボタンは緑色に点灯します)。

デフォルトでは、2オクターブ上と2オクターブ下の一時的なハーモニーシフトが設定されています。設定変更の方法と設定可能な機能の詳細については、15ページに記載しています。

ジョイスティック

“Oct”と“Part 2”ボタンの下には、ジョイスティックが用意されています。ジョイスティックは、左右方向の操作でピッチベンド、上下方向の操作で2種類のモジュレーション情報の操作が可能です。

ピッチベンドは、MIDIのピッチベンド情報を操り、演奏ノートの音程を上下させる操法時に使用します。ベンドレンジはこの情報を受け取る音源側で設定を行います。

モジュレーション操作は、MIDIコンティニユアスコントローラー (CC) の情報を送信します。一般的には、ビブラートの深さやフィルターの開閉に使用されます。音源によってはダイナミクスコントロールやエフェクトの深さに関する設定が割り当てられる場合もあります。通常、上方向の操作はMIDI規格で定められたModulation (MIDI CC #1) を扱います。下方向の操作は、MIDI規格で定められたFoot Pedal MSB (MIDI CC #4) を扱います。いずれも、別のMIDI情報を割り当てることが可能です。

フットスイッチ

Impact LX Miniはフットスイッチ端子を備えており、別売のフットスイッチを接続することで、サスティンペダルなどとしてお使いいただけます。フットスイッチの極性は、本機の電源投入時に自動検知されます。以下の手順で接続を行います：

- Impact LX Miniの電源を切ります。
- 付属のアダプタを使い、フットスイッチを接続します。
- Impact LX Miniの電源を入れます。

MIDIソフトウェアの操作

Impact LX Miniは、DAWやMIDIソフトウェアを柔軟に扱えるよう設計されていますが、多彩な機能を快適に利用するため、あらかじめお使いのソフトウェアや環境に合わせた設定を行う必要があります。

- お使いのDAWに対応するインテグレーションファイルをインストールし、設定を行います。
- DAW (や音源) のラーン機能で設定を行います。
- Impact LX Miniのコントロールをお使いのソフトウェアに合わせて設定を行います。

Nektarが提供するDAWインテグレーションファイルを使用する場合、PDFガイドの記載に従ってインストールと設定を行います。

DAWのラーン機能やImpactのMIDI設定を使用する場合の手順や詳細に関して、後の項目で解説します。ここでは、Impact LX Miniの基礎的な構造について解説します。

インストゥルメント (Instrument) / インターナル (Internal) モード

Impact LX Miniは、インストゥルメントとインターナルの各モードで異なるコントローラー設定を保持し、切り替えて使用できます。これらの設定には、Impact LX Mini上のボリュームと8基のノブの設定が保持されます。デフォルトでは、ボリュームはグローバルチャンネルのCC#7に設定され、8つのノブは、“Page” ボタンの操作でデフォルトとユーザーの2つの設定を切り替えることが可能です。

インストゥルメントモードは、通常、Nektar DAWインテグレーションに対応するDAWソフトウェアと使用します。DAWインテグレーションを使用しない場合は、汎用のコントロールモードとして、ソフトウェアのMIDIラーン機能を使い、設定を行います。

インターナルモードでは、ソフトウェアのMIDIラーンやImpact LX Mini本体の設定モードを使うことで、さまざまなパラメーターの割り当てが行えます。“Page” ボタンの操作によって、最大16の割り当てが可能です。

ページ (Page) ボタン

8基のロータリーノブのコントロールセットの切り替えを行います。

ロータリーノブ 1~8

8基のノブは、“Instrument”、“Internal”のモードボタン、そして“Page” ボタン操作の組み合わせで、MIDIコントロールセットを切り替えて使用することが可能です。これらの設定は、メニューで変更することができます。



Internalモード時のノブ設定は下表の通りです：

ページ	Default		
ノブ	MIDI CC#	一般的機能割当 (GM 定義)	MIDI Ch
1	73	Attack	グローバル
2	75	Decay	グローバル
3	72	Release	グローバル
4	76	Sound Control 7 (Vibrato Rate)	グローバル
5	74	Cutoff / Brightness	グローバル
6	71	Resonance / Timbre	グローバル
7	5	Portament Time	グローバル
8	84	MIDI CC#84	グローバル

ページ	User		
ノブ	MIDI CC#	一般的機能割当 (GM 定義)	MIDI Ch
1	77	Sound Control 8 (Vibrato Depth)	グローバル
2	78	Sound Control 9 (Vibrato Delay)	グローバル
3	91	Effect Depth 1 (Reverb Send)	グローバル
4	92	Effect Depth 2	グローバル
5	93	Effect Depth 3 (Chorus Send)	グローバル
6	94	Effect Depth 4	グローバル
7	95	Effect Depth 5	グローバル
8	10	Pan	グローバル

*内蔵アルペジエーター／ノートリピートをオンにした場合は、その操作に割り当てられます。

ヒント:多くのソフトウェアにはMIDIラーンと呼ばれるコントロールの学習機能を装備しています。それを利用することで設定がより簡単に行えます。

グローバルコントロール

グローバルコントロールには、ジョイスティック(ピッチベンド/モジュレーション)、フットスイッチなどに関する設定が含まれます。これらの設定は、本機の電源を落としても保持されます。

トランスポートボタン

Impact LX Miniのトランスポートボタンは、対応DAWの再生、停止などの基本的な操作以外に、“Shift”ボタンの併用で、トラックやプラグインのプリセット切り替え、その他の操作に使用することもできます。詳細は、各DAWのガイドの項目に記載しています。



トランスポート + シフトボタン操作

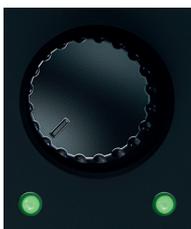
Impact LX Miniのトランスポートボタンは、汎用のMIDIスイッチとしても機能し、“Shift”ボタンとの併用で合計14のスイッチとして機能します。

これらのスイッチは、ソフトウェアのMIDIラーン機能を使うと簡単に設定を行えますが、必要に応じてImpact LX Miniの設定メニューでお好みのMIDI情報を割り当てすることも可能です。

ボリュームノブ

大型のコントロールポットは、デフォルトではMIDI CC #7の送信に割り当てられていますが、任意のMIDI CCメッセージを割り当てることができます。割り当ての変更は、後述の設定モードで行います。

DAWインテグレーションを使用している場合、このポットは選択されているトラックのボリュームをコントロールします(ポットの下にある2つのLEDは、Nektar DAWインテグレーションでのみ使用されます)。



アルペジエーター／ノートリピート

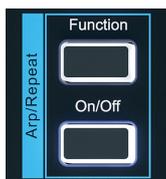
Impact LX Miniは、アルペジエーター／ノートリピート機能を備えています。この機能は、キーボードとパッドのそれぞれで個別に扱うことが可能です（ただし、テンポ設定だけはキーボードとパッドで共通となります）。

アルペジエーターのトリガータイミングは16分音符にクオンタイズされます。適切なタイミングでアルペジオ／ノートリピートを行うには、打鍵のタイミングを少し前にするとうまいでしょう。

各部の機能は以下の通りです：

オン／オフ (On/Off) とファンクション (Function)

“On/Off”ボタンは、アルペジエーター／ノートリピート全体のオン／オフを切り替えます。オンにした場合、ボタンが点滅します。“Function”ボタンは、この機能のコントロールや設定時に使用します。



個別のオン／オフ (Keys On / Pads On) ボタン

パッド右隣に並ぶ2つのボタンは、キーボード (Clips / Keys On) とパッド (Scenes / Pads On) それぞれのアルペジエーターエンジンのオン／オフを切り替える際に使用します。また、“Function”ボタンを押しながら、これらのボタンを押すと、キーボードとパッド、それぞれのアルペジエーター設定をリセットできます。



アルペジエーター設定

“Function”ボタンをオンにした場合、以下のコントロールを使ってアルペジエーターの操作と設定が行えます。



ページ (Page) ボタン

“Page”ボタンは、キーボード (Keys) とパッド (Pads)、それぞれのアルペジエーター操作の切り替えに使用します。“Shift”を押しながら“Page”ボタンを押すと、キーボードとパッドのアルペジオパラメーターを一括で操作できます。

コントロールノブ

アルペジエーター／ノートリピートに関する以下の設定に使用します：

- Rate (レート) : アルペジオまたはリピート演奏の分解能 (細かさ) を1拍 (1/4) から64分 (1/64) の間で設定します。
- Swing (スウィング) : シャッフルの度合いを±50%の間で設定します。マイナス設定で一つおきの発音タイミングが前に、プラス設定で後ろにオフセットされます。スウィングを無効にする場合はセンターポジションに設定します。
- Accent Level (アクセントレベル) : アクセントノートの強さを設定します。入力されたベロシティ±アクセントレベルのオフセットで演奏が繰り返されます。アクセントレベルの範囲は、±50%の間で設定できます。
- Interval (インターバル) : アクセントノートの間隔を2~8の間に設定します。2設定した場合は、一つおきのノートがアクセントノートになります。8に設定した場合は、8つ目に演奏されるノートごとにアクセントが適用されます。このノブを操作すると、パッドの点灯で設定値を確認できます。
- Tempo (テンポ) : アルペジオまたはリピート演奏の基準となるテンポを30~240BPMの間で設定します。
- Arp Mode (アルペジオモード) : アルペジエーターの動作モード (オフ = ノートリピート、上昇、下降、上下、演奏順) を設定します。
- Arp Octave (アルペジオオクターブ) : アルペジオ演奏のオクターブ範囲を設定します。設定値に従ってアルペジオ演奏が順番にオクターブシフトします。
- Gate (ゲート) : アルペジオノート長さを設定します。最大値 = レート値になります。このパラメーターは、リアルタイム操作をすることで、エンベロープのディケイに似た興味深い効果を得ることが可能です。

*ノブの刻みに印字されている値は、アルペジエーター機能のために用意されたものです。

パッド

上段左から3つのドラムパッドは、アルペジエーター／ノートリピートに関する以下の設定に使用します：

- Mod > Vel (モジュレーション > ベロシティ) : ジョイスティックの上方向の操作 (CC#1 = モジュレーションホイール情報) による、アルペジオ／リピート演奏のベロシティコントロールを有効にします。
- Triplets (トリプレット) : レートの設定を3連符にします。オンにした場合、設定値は、1拍3連 (1/4T) から64分3連 (1/64T) の間になります。
- Tap Tempo (タップテンポ) : リズムに合わせて数回叩くことによるテンポの手動設定を行います。

MIDIクロックとの同期

アルペジエーター／ノートリピートは、DAWなどからのMIDIクロックを受け同期します。

Impact LX MiniのUSB MIDIポート1を通じてMIDIクロックを受信すると、自動的に同期が行われます。この時、Impact LX Miniのテンポ設定は無効になりません (テンポはMIDIクロックのソース側で設定します)。

ドラムパッド

LEDバックライト付きの8つのペロシティ対応パッドは、パッドごとにMIDIノートまたはMIDIスイッチ情報を設定することができます。つまり、通常のパッドコントローラーとしての用途以外にも、さまざまな「スイッチ」として機能します。Impact LX Miniのパッドは、演奏スタイルに合わせ、4種類のペロシティカーブと3つの固定ペロシティを選んで設定することができます。



パッドマッピング(Pad Map1 ~ 4)

パッドの設定は、パッドマッピング(Pad Map)として保存することが可能です。Impact LX Miniでは4つのマッピングを保存し、切り替えてお使いいただけます。切り替えの手順は以下の通りです：

1. “Internal”ボタンを押すと、現在選択されているマッピングのパッドが点灯します。“Internal”ボタンを押しながら、下段のパッドのいずれかを押します(本体パネルに印字された通り、左からPad Map 1、2、3、4の選択に対応します)。
2. 目的のパッドを押した後に、“Internal”ボタンから手を離します。

13ページでは、4つのパッドマッピングのデフォルト設定について解説しています。

パッドラーン(Pad Learn)機能

パッドラーン機能はパッドへのノートの割り当てを簡潔に行うための機能です。パッドラーンによる設定は一時的なもので、本機の電源をオフにしたり、別のマッピングを呼び出した際に消えてしまいます。必要に応じ、マッピングの保存を行ってください。詳細は、15ページに記載しています。

パッドのMIDI情報設定

パッドはノート情報だけでなく、コントロール情報を送信するスイッチとしても機能します。詳細は、14ページに記載しています。

ペロシティカーブ

パッドのペロシティカーブを変更することが可能です。変更は、設定メニューで行います。詳細は、16ページに記載しています。

クリップ(Clips)とシーン(Scenes)ボタン

“Clips”と“Scenes”ボタンは、特定のNektar DAWインテグレーションで機能します。また、アルペジエーター／ノートリピートのキーボードとパッドのオン／オフ切り替えに使用します。

パッドのバックライトカラー

パッドのバックライトの点灯色によって、その状態を確認することができます(ノートオフ時の点灯色で選択されているパッドマッピングを確認できます)。下表はパッドマッピングとLEDカラーの関係を示します:

PAD MAP (パッドマッピング)	LEDカラー
1	緑
2	橙
3	黄
4	赤

パッドにノートを割り当てている場合、演奏した瞬間に、これらの色から別の色へと変化します。パッドをノート以外のMIDI情報の送信スイッチとして使用する場合、割り当てたMIDI情報とバックライトの点灯色との関係は以下の通りになります:

Program:パッドでMIDIプログラムチェンジ情報を扱う場合、最後にMIDIプログラム情報を送信したパッドのみが橙色に点灯します(他のMIDIプログラムチェンジを扱うパッドのバックライトは消灯します)。これによって、複数のパッドをプログラムチェンジに使用した場合、どのプログラムを使用(演奏)しているのかを瞬時に把握できます。

MIDI CC:パッドでMIDIコンティニュアスコントローラー(CC)情報を扱う場合、CCのパラメーター値によって点灯色が異なります(値=0はオフ、1-126は緑、127は赤色に点灯します)。

パッドマッピングのデフォルト設定

Map 1 - クロマチックスケール

	ノート名	ノート番号	Data 1	Data 2	Data 3	MIDI Ch
パッド1/P1	C1	36	0	127	0	グローバル
パッド2/P2	C#1	37	0	127	0	グローバル
パッド3/P3	D1	38	0	127	0	グローバル
パッド4/P4	D#1	39	0	127	0	グローバル
パッド5/P5	E1	40	0	127	0	グローバル
パッド6/P6	F1	41	0	127	0	グローバル
パッド7/P7	F#1	42	0	127	0	グローバル
パッド8/P8	G1	43	0	127	0	グローバル

Map 2 - クロマチックスケール (Map 1の続き)

	ノート名	ノート番号	Data 1	Data 2	Data 3	MIDI Ch
パッド1/P1	G#1	44	0	127	0	グローバル
パッド2/P2	A1	45	0	127	0	グローバル
パッド3/P3	A#1	46	0	127	0	グローバル
パッド4/P4	B1	47	0	127	0	グローバル
パッド5/P5	C2	48	0	127	0	グローバル
パッド6/P6	C#2	49	0	127	0	グローバル
パッド7/P7	D2	50	0	127	0	グローバル
パッド8/P8	D#2	51	0	127	0	グローバル

Map 3 - Cメジャースケール

	ノート名	ノート番号	Data 1	Data 2	Data 3	MIDI Ch
パッド1/P1	C3	60	0	127	0	グローバル
パッド2/P2	D3	62	0	127	0	グローバル
パッド3/P3	E3	64	0	127	0	グローバル
パッド4/P4	F3	65	0	127	0	グローバル
パッド5/P5	G3	67	0	127	0	グローバル
パッド6/P6	A3	69	0	127	0	グローバル
パッド7/P7	B3	71	0	127	0	グローバル
パッド8/P8	C4	72	0	127	0	グローバル

Map 4 - GMドラムキット

	ノート名	ノート番号	Data 1	Data 2	Data 3	MIDI Ch
パッド1/P1	C1	36	0	127	0	グローバル
パッド2/P2	D1	38	0	127	0	グローバル
パッド3/P3	F#1	42	0	127	0	グローバル
パッド4/P4	A#1	46	0	127	0	グローバル
パッド5/P5	G1	43	0	127	0	グローバル
パッド6/P6	A1	45	0	127	0	グローバル
パッド7/P7	C#1	37	0	127	0	グローバル
パッド8/P8	C#2	49	0	127	0	グローバル

設定 (Setup) メニュー

設定メニューは、各種追加機能にアクセスする際に使用します。設定を行うには、まず“Shift”ボタンを押しながら“Internal”ボタンを押します。次に、パネル上に印字された箇所の鍵盤を押します。



Impact LX Miniでは選択したメニューに応じ、数値設定が必要な場合に黒鍵が数値入力モードへと切り替わります。負の数値を設定する必要がある場合は、C#1 = 0/- を使用します。例えば、2オクターブ下を設定する場合は、C#1 (-)、F#1 (2)、C3 (Enter) の順番に押します。

*各メニューの詳細に関する記述はMIDIに関してご理解頂いていることを前提としています。もしMIDIの役割や、用語、基礎的な知識に関してご不明の場合は、コントロール設定をされる前にMIDIに関する理解を深められることをお勧めします。例えば、ご利用のソフトウェアのMIDIに関する記述を確認されることは、用語や役割など、必要な知識を知るためのきっかけとして、有効な手段のひとつです。

設定メニューに入ると鍵盤のMIDIノート出力はミュートされます。

以下、各メニューの詳細と設定方法です：

設定のキャンセル - Cancel - 鍵盤：C1

鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で確定する前に、設定値をキャンセルします。

コントロール情報 (CC) 設定 - Control Assign - 鍵盤：C1

このメニューは選択したコントローラーのMIDI CCの変更に使用します。

Impact LX Mini上のコントローラーのほとんどがMIDI CCの設定に対応します。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：C#1 (#CC Assignとパネル印字されています) を押します。
- 目的のコントローラーを操作します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のCC# (0 ~ 127) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

プログラムチェンジ設定 - Program Assign - 鍵盤：D1

MIDIプログラムチェンジを送信します。プログラムチェンジは特定のボタン操作で行うことが可能です。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：D1 (Prg Assignとパネル印字されています) を押します。
- 目的のコントローラー (ボタン) を操作します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のプログラム番号 (0 ~ 127) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

注意：機器によってはプログラム番号の表示が異なります。0 - 127ではなく、1-128の表示を使用する場合、MIDIプログラムチェンジの0 = 機器のプログラム1番、つまり“1”を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

MIDIチャンネル設定 - MIDI Ch Assign - 鍵盤：D#1

Impact LX Miniでは、コントローラーごとにMIDIチャンネルを設定することができます。また、グローバルチャンネルの設定に従うようにすることも可能です。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：D#1 (MIDI Ch Assignとパネル印字されています) を押します。
- 目的のコントローラーを操作します。
- 設定値：0はグローバルMIDIチャンネル設定になります。ほとんどのコントローラーのデフォルト設定はグローバルMIDIチャンネルになっています。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のMIDIチャンネルCC# (1 ~ 16) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

パッドラーン機能 - Pad Learn - 鍵盤:E1

パッドラーン機能はパッドのノート設定を簡潔に行うための機能です。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：E1 (Pad Learnとパネル印字されています) を押します。
- 任意のパッドを叩きます。
- 任意のMIDIノートの鍵盤を押してパッドに割り当てます。この際、MIDIノートはソフトウェアにも送信されますので、実際に音を確認しながら設定が行えます。
- 上記手順を繰り返して、目的のパッド全ての設定を完了します。
- “Instrument”、“Internal”あるいは“Function”ボタンのいずれかを押し、設定モードを解除します。

パッドマッピングの保存 - Save Pad Map - 鍵盤:F1

パッドの設定をマッピング (Pad Map) として保存することができます。これらの設定は本体の電源をオフにしても保持され、いつでも呼び出しできます。ただし、パッドラーンによる設定は一時的なもので、本体の電源をオフにしたり、別のマッピングを呼び出した際に消えてしまいます。設定を継続して使用する場合、マッピングプリセットとして保存を行ってください。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：F1 (Save Pad Mapとパネル印字されています) を押します。パッドマッピング1~4に対応する4つのパッドが点灯します。
- 現在の設定を保存したいパッドを叩きます。
- 鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) を押して、保存を実行します。

メモ：鍵盤：C3を押す前に設定メニューを解除することで、保存をキャンセルできます。

パート2機能のフットスイッチ操作 - FC Trig Part 2 - 鍵盤:F#1

任意のパート2ボタンをフットスイッチで操作することが可能です。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：F#1 (FC Trig Part 2とパネル印字されています) を押します。
- 設定対象のボタン (Part 2 “▼” / “▲”) を押します。
- 鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) を押して、設定を適用します。

設定を解除するには、上記操作を再度行います。

パート2ボタン設定 - Part 2 - Octave / Chan. / Transp. / Layer - 鍵盤:G1 / G#1 / A1 / A#1

パート2ボタンの設定を行います。パート2ボタンを押すと、事前の設定に従った機能が実行されます。パート2ボタンでは、下表に示された4つの項目を設定することができます。下表は各設定に関する情報です：

鍵盤	ラベル - 機能	設定範囲	備考
G1	Octave - オクターブオフセット	+3オクターブ	入力ノートのオクターブオフセット設定です。
G#1	Chan. - MIDIチャンネル	0-16.0 = グローバルチャンネル	パート2を別の音源で鳴らす際に使用します。
A1	Transp. - トランスポーズオフセット	+12半音 (semitone)	入力ノートの半音単位のオフセット設定です。
A#1	Layer - パート2レイヤーの有効	オン / オフ	パート2のオン / オフを設定します。

設定手順は次の通りです：

- 設定メニューに入ります。
- 設定対象のボタン (Part 2 “▼” / “▲”) を押します。
- 目的とする機能の鍵盤 (G1 ~ A#1) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で設定値を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。
- これらの機能は複合して使用できますので、目的に応じて、上記の操作を繰り返します。

パート2機能の設定と活用例：

単純にキーボードの演奏範囲を2オクターブ上にシフトする場合、Oct=2、Chn.=0、Transp=0、Layer=Offに設定します。この設定で、Layerをオンにすると、同じ音で2オクターブ上のハーモナイズ演奏になります。

チャンネルを別のチャンネルに変更して、別の音源にこの信号を送ることで、別の音で2オクターブ間のユニゾンで演奏できます。あるいはオクターブを0に設定し、トランスポーズを+7に設定すると、長5度でハーモニーを演奏できます。

グローバルMIDIチャンネル - Global MIDI Ch - 鍵盤:C2

Impact LX Miniのキーボードは、常にグローバルMIDIチャンネルの設定に従ったMIDIチャンネルのノート情報を出力します。コントローラーやパッドはこの設定に従うことも個別にMIDIチャンネルを設定することも可能です。

設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：C2 (Global MIDI Chとパネル印字されています) を押します。
- 設定値:0はグローバルMIDIチャンネル設定になります。ほとんどのコントローラーのデフォルト設定はグローバルMIDIチャンネルになっています。
- 数字(0 - 9)がパネル印字された鍵盤:C#1 - A#2で目的のMIDIチャンネルCC#(1 ~ 16)を入力し、右端の鍵盤:C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

キーボードペロシティカーブ - Kbd Curve - 鍵盤:C#2

Impact LX Miniの鍵盤は、演奏に合わせて4種類のペロシティカーブと3つの固定ペロシティを選ぶことができます。下表は各設定に関する情報です：

カーブ	設定番号	概要
Soft / ソフト	1	最もダイナミック(強いタッチが必要)なカーブです。
Default / デフォルト	2	中間から高いペロシティが強調される一般的なカーブです。
Hard 1 / ハード 1	3	デフォルト設定よりも簡単に高いペロシティ(柔らかいタッチ)カーブです。
Hard 2 / ハード 2	4	最も柔らかいタッチで高いペロシティを強調するカーブです。
127 Fixed / 127固定	5	打鍵の強さに関わらず、ペロシティ値:127(最大)を出力します。
100 Fixed / 100固定	6	打鍵の強さに関わらず、ペロシティ値:100を出力します。
64 Fixed / 64固定	7	打鍵の強さに関わらず、ペロシティ値:64(中間値)を出力します。

設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：C#2 (Kbd Curveとパネル印字されています) を押します。
- 数字(0 - 9)がパネル印字された鍵盤:C#1 - A#2で目的のMIDIチャンネルCC#(1 ~ 16)を入力し、右端の鍵盤:C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

パッドペロシティカーブ - Pad Curve - 鍵盤:D2

Impact LX Miniのパッドは、演奏に合わせて4種類のペロシティカーブと3つの固定ペロシティを選ぶことができます。下表は各設定に関する情報です：

カーブ	設定番号	概要
Dynamic / ダイナミック	1	最もダイナミック(強いタッチが必要)なカーブです。
Default / デフォルト	2	中間から高いペロシティが強調される一般的なカーブです。
Hard 1 / ハード 1	3	デフォルト設定よりも簡単に高いペロシティ(柔らかいタッチ)カーブです。
Hard 2 / ハード 2	4	最も柔らかいタッチで高いペロシティを強調するカーブです。
127 Fixed / 127固定	5	叩いた強さに関わらず、ペロシティ値:127(最大)を出力します。
100 Fixed / 100固定	6	叩いた強さに関わらず、ペロシティ値:100を出力します。
64 Fixed / 64固定	7	叩いた強さに関わらず、ペロシティ値:64(中間値)を出力します。

設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：D2 (Pad Curveとパネル印字されています) を押します。
- 数字(0 - 9)がパネル印字された鍵盤:C#1 - A#2で目的のMIDIチャンネルCC#(1 ~ 16)を入力し、右端の鍵盤:C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

パニック(オールノートオフ) - Panic - 鍵盤:D#2

この機能は、すべてのMIDIチャンネルにオールノートオフとリセットオールコントローラーの情報を送信する際に使用します。音源が鳴りっぱなしになるなどのトラブルの際に有用です。実行は、設定メニューに入り、F1の鍵盤(Panicとパネル印字されています)を押します。情報送信後、設定メニューは自動解除されます。

メモリダンプ - Memory Dump - 鍵盤:E2

Impact LX Miniの現在のコントローラーの構成をバックアップする際に使用します。この操作を行うと、設定構成をMIDIシステムエクスクルーシブ形式のデータとして送信します。この機能を利用する際は、MIDIシステムエクスクルーシブに対応したDAWまたはMIDIユーティリティソフトウェアが必要です。バックアップされたデータは保存時と同様に、DAWまたはMIDIユーティリティを使用してImpact LX Miniに転送することが可能です。

メモリダンプの操作手順は次の通りです：

- MIDIシステムエクスクルーシブ (syx) に対応したソフトウェアを起動します。
- ソフトウェアのMIDIレコーディングを開始します。
- Impact LX Miniの鍵盤：E2 (Memory Dumpとパネル印字されています) を押し、送信を開始します。
- 記録を完了したら、ソフトウェアのレコーディングを停止し、syx形式のMIDIファイルとして名前を付けて保存します。

バックアップファイルの転送：

メモリダンプによってバックアップしたファイルをImpact LX Miniに戻す際の操作手順は次の通りです：

- MIDIシステムエクスクルーシブ (syx) に対応したソフトウェアを起動します。
- バックアップファイル (syx形式) を開き、出力先をImpact LX MiniのUSB MIDIポート1に設定します。
- ソフトウェアの再生を開始すると、Impact LX Miniはデータの受信を開始します。
- 転送が完了したら、MIDIソフトウェアを終了します。

省電力モード - Low Power - 鍵盤:F2

Impact LX Miniには、iPadやバッテリー駆動のノートPCなどに適した省電力モードが用意されています。このモードをオンにするとすべてのLEDバックライトが強制的にオフになります。省電力モードの設定方法は、2通りあります。

一時的に省電力モードにする場合：

- サイクルとレコーディングボタンを押しながら、Impact LX Miniの電源を投入します。
- 本体が完全に起動したら、ボタンを離します。
- 以上で省電力モードでの起動となります。この設定は記憶されず、再度電源をオンにした際に、通常モードで起動します。

恒久的に省電力モードで使用する場合は、設定メニューで行います：

- 鍵盤：F2 (Low Powerとパネル印字されています) を押し、鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。
- 省電力モードを解除する場合は、上記の操作を再度行います。

テンポ設定 - Set Tempo - 鍵盤:G2

Impact LX Miniの内蔵アルペジエーター／ノートリピート機能のテンポを設定します。

テンポの設定手順は以下の通りです：

- 鍵盤：G2 (Set Tempoとパネル印字されています) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のMIDIチャンネルCC# (1 ~ 16) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

USBポート設定 - USB Port Mode - 鍵盤:A2

Impact LX Miniは、1つの物理USBポートを装備していますが、コンピューターでは2つのUSB MIDIポートを持つデバイスとして認識されます。メインのポートは鍵盤からのノート情報、汎用のコントローラー情報を扱い、追加ポートは必要に応じてDAWソフトウェアで使用します。この設定は、特定のDAWソフトウェアに対して行います。設定が必要となる場合、その手順含めウェブサイトおよびPDF版のDAW設定ガイドにて解説します。

ファクトリーリストア

以下の操作でImpact LX Miniを工場出荷時の状態に戻すことができます：

- 2つのオクターブボタン(“Oct ▼” / “Oct ▲”)を押しながら、Impact LX Miniの電源を入れます。
- リセットを確実にを行うため、電源投入後はボタンを約3秒ほど押し続けます。

この操作は、最初から設定をやり直す際にも便利です。

DAW設定ガイド - Bitwig

Impact LX MiniのBitwigインテグレーションは、バージョン4.1以降のBitwigに含まれています。したがって、別途ファイルのインストールは不要です。

設定

Impact LX MiniとBitwigの設定は、LX Miniをコンピューターに接続して、Bitwigを起動するのみです。まずはLX Miniの再生ボタンを押して、動作をご確認ください。

LX Miniが自動認識されない場合、以下をご確認ください：

- LX Miniのファームウェアが最新であることを確認します。ファームウェアはNektarウェブサイトでの製品登録後、「MY ACCOUNT」ページから入手することができます。
- Bitwigのバージョンが4.1以降であることを確認します。
- Impact LX Miniがコンピューターに正しく接続され、電源が投入されていることを確認します。

トラブルシューティング

- Bitwigを起動し、ダッシュボード(画面上端中央のBitwigロゴのクリック)から、設定 (SETTINGS) タブを選び、コントローラー (Controllers) ページを開きます。
- Impact LX Miniが一覧に表示されている場合は、電源ボタンアイコンをクリックしてオンにします。
- 一覧にない場合、“+ Add Controller”をクリックし、Impact LX Miniを設定します。
- 完了後、“ADD”ボタンをクリックし、コントロールデバイスとして追加します。

インストゥルメントの演奏

Bitwigのデフォルトソングは、インストゥルメント(音源デバイス)が設定されていません。LX Miniによって音源を演奏するための手順は以下の通りです：

- Bitwigの右サイドパネルからデバイスブラウザから、PolysynthやFM-4などのインストゥルメントを選びます。
- 選択したデバイスをアレンジメント画面にドラッグ&ドロップします。
- インストゥルメントが追加されたトラックを選択すると、LX miniで演奏することができます。

DAW設定ガイド - Bitwig と Impact LX Mini

Bitwig StudioまたはBitwig 8-Trackでは、Impact LX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はBitwigの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーレーンを開く/閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	デバイスチェーンを開く/閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	ブラウザを開く/閉じる*	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	選択デバイスの前パッチ	Shift + ▶	オーバーダブモードランチャー(Launcher)
●	録音	Patch ▶	選択デバイスの次パッチ	Shift + ●	オーバーダブモードアレンジャー(Arranger)

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Bitwigのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Bitwigのマスターボリュームを操作できます。

デバイス操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したデバイスのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

ソフトテイクオーバー

一般的に、外部コントローラーを使ってBitwigのミキサーボリュームを操作した場合、実際のノブの位置とソフトウェアのパラメーターとの差異により、値がジャンプすることがあります。Impact LX Miniは、この現象を回避するため、「ソフトウェアテイクオーバー」機能を備えます。これにより、実際のノブの位置とパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ボリュームノブ直下にある2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーターの値がノブの位置と一致しない場合、左右いずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下を示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切り替えた場合、LEDの状態はそれに合わせ更新されます。

ドラムパッドによるクリップとシーンコントロール

LX Miniの8つのパッドは、Bitwigのクリップ(Clips)とシーン(Scenes)の演奏に使用できます。パッド横の「Clips」ボタンと「Scenes」ボタンで、それぞれの演奏モードに入ります。

クリップモードでは、選択トラックの最初から8つのクリップスロットと連動します。シーンモードでは、最初の8つのシーンと連動します。

これらのモードにおけるドラムパッドのLED表示は以下の通りとなります：

LEDの状態	クリップモード時	シーンモード時
黄	クリップがスロットに存在します	少なくとも1つのトラックにクリップが存在します
緑	クリップ再生中	シーン再生中
赤	クリップ録音中	
消灯	空のスロット	空のシーン
点滅	録音(赤)または再生(緑)開始タイミングまで待機中	再生開始待機中

LX Miniは、クリップ/シーンのそれぞれで8つのバンクにアクセスし、最大64のクリップ/シーンにアクセスできます。バンクを切り替えるには、クリップまたはシーンモード時に、“Page”ボタンを押しながら、任意のパッドのいずれかを押します。例えば、クリップモードで“Page”ボタンを押しながらパッド2を叩いた場合、選択トラックの9～16番目のクリップスロットと連動します。シーンモードでパッド4を叩いた場合、パッドは25～32番目のシーンと連動します。

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

Impact LX Miniは、Cubaseインテグレーションファイルでバージョン5以降のCubaseと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ここではCubaseで解説をしていますが、Nuendoでも同様の設定となります。

設定

Impact LX MiniとCubaseの設定は、以下の通りです：

- Cubaseを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Steinberg_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Cubaseを起動し、デバイス > デバイス設定 > MIDIポートの設定を開きます。
- Impactの2番目の入力ポート (Windows = “MIDIIN2 (IMPACT LX)”、Mac = “Impact LX Port 2”) で、“In ‘All’ MIDI”欄のチェックを外します。
- Impactがリモートデバイスの箇所にリストに表示されていることを確認します。
- 正しく設定されていることを確認したら、“OK”ボタンをクリックしてデバイス設定を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます：

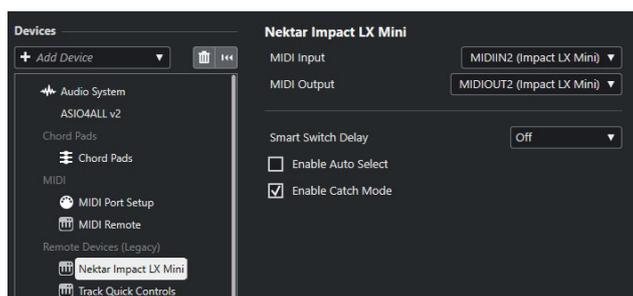
WindowsでのMIDIポート設定

Device	I/O	Port System Name	Show As	Visible	State	In 'All' MIDI
Windows MIDI	In	Impact LX Mini	Impact LX Mini	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	<input checked="" type="checkbox"/>
Windows MIDI	In	MIDIIN2 (Impact LX Mini)	MIDIIN2 (Impact LX Mini)	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	<input type="checkbox"/>
Windows MIDI	Out	Impact LX Mini	Impact LX Mini	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	
Windows MIDI	Out	MIDIOUT2 (Impact LX Mini)	MIDIOUT2 (Impact LX Mini)	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	

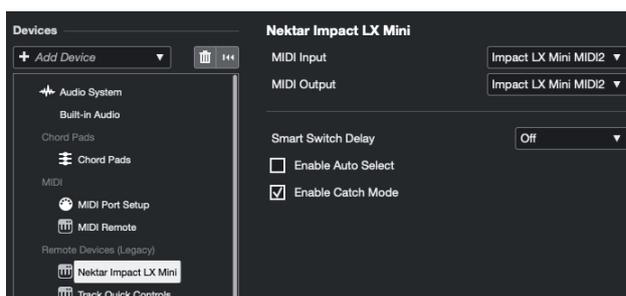
macOSでのMIDIポート設定

I/O	Port System Name	Show As	Visible	State	In 'All' MIDI
In	Impact LX Mini MIDI1	Impact LX Mini MIDI1	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	<input checked="" type="checkbox"/>
In	Impact LX Mini MIDI2	Impact LX Mini MIDI2	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	<input type="checkbox"/>
Out	Impact LX Mini MIDI1	Impact LX Mini MIDI1	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	
Out	Impact LX Mini MIDI2	Impact LX Mini MIDI2	<input checked="" type="checkbox"/>	Active	

Windowsでのスタジオ設定



macOSでのスタジオ設定



DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo と Impact LX Mini

Cubase/Nuendoでは、Impact LX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はCubase/Nuendoの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーの表示/非表示	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く/閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	チャンネルストリップを開く/閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメントパッチ*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメントパッチ*	Shift + ●	オーバーダブモード

*全てのVSTインストゥルメントでパッチ切り替えを行えるわけではありませんが、ほとんどのSteinbergプラグインは対応しています。まずは、Cubase/Nuendo標準装備のプラグインでご確認ください。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Cubaseのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Cubaseのマスターボリュームを操作できます。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

ソフトテイクオーバー

一般的に、外部コントローラーを使ってCubaseのミキサーボリュームを操作した場合、実際のノブの位置とソフトウェアのパラメーターとの差異により、値がジャンプすることがあります。Impact LX Miniは、この現象を回避するため、「ソフトウェアテイクオーバー」機能を備えます。これにより、実際のノブの位置とパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ボリュームノブ直下にある2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーターの値がノブの位置と一致しない場合、左右いずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切り替えた場合、LEDの状態はそれに合わせ更新されます。

DAW設定ガイド - Digital Performer

Impact LX Miniは、MOTUインテグレーションファイルでバージョン8以降のDigital Performerと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.11以降の環境で動作します。

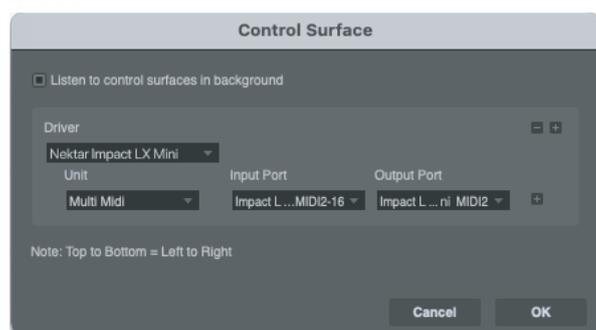
設定

Impact LX MiniとDigital Performerの設定は、以下の通りです：

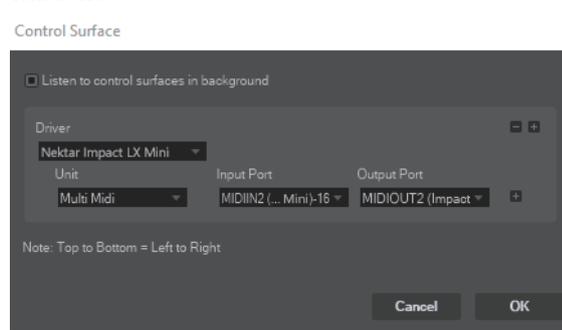
- Digital Performerを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_MOTU_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Digital Performerを起動し、プロジェクトの作成、もしくは既存プロジェクトを開きます。
- セットアップメニューからコントロールサーフェスの設定...を開きます。
- “+”アイコン（アウトポートポートの右横）をクリックし、デバイスを追加します。
- “ドライバ”の項目から、Nektar Impact LX Miniを選択します。
- “ユニット”の箇所はMulti MIDIを設定します。
- “インポートポート”に2番目のポート（Windows = MIDIIN2 (Impact LX Mini)、Mac = Impact LX Mini Port 2-16）を設定します。
- “アウトポートポート”は1番目のポート（Windows = Impact LX Mini、Mac = Impact LX Mini Port 1）を設定します。
- 完了したら、“OK”をクリックしてコントロールサーフェス設定画面を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます：

macOS



Windows



DAW設定ガイド - Digital Performer と Impact LX Mini

Digital Performerでは、Impact GXを使用して以下の操作が行えます。

下表はDigital Performerの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	取り消し(Undo) やり直し(Redo)
◀	巻戻し 再操作で停止	S2	インストゥルメントを 開く/閉じる	Shift + ◀	左ロケーターに移動
▶	早送り 再操作で停止	S3	設定なし	Shift + ▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメント パッチ	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメント パッチ	Shift + ●	オーバーダブモード

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Digital Performerのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Digital Performerのマスターボリュームを操作できます。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

DAW設定ガイド - FL Studio

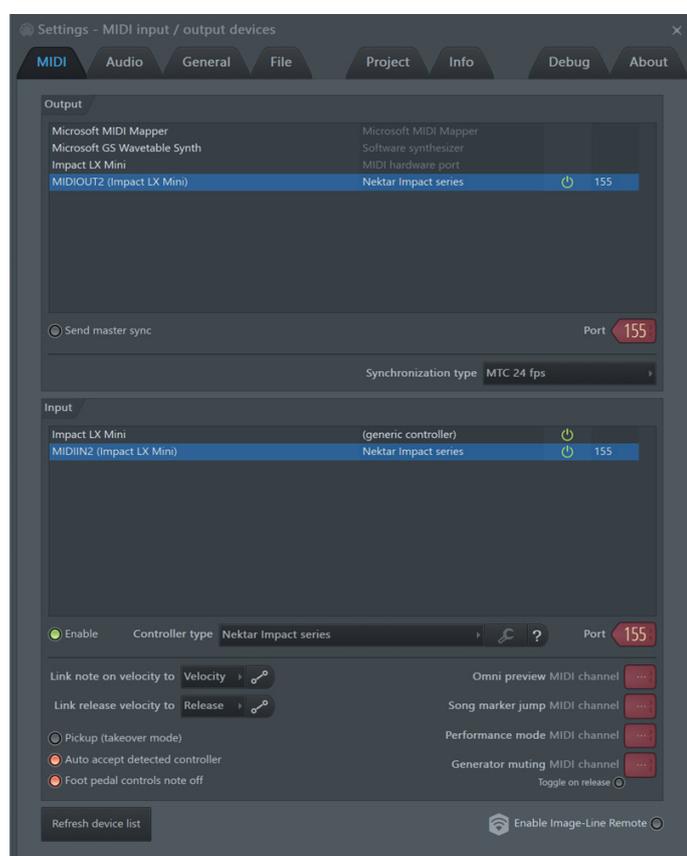
Impact LX Miniは、バージョン11.2以降のFL Studioと連動します。

設定

Impact LX MiniとFL Studioの設定は以下の通りです：

- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- FL Studioを起動し、OptionsメニューからMIDI Settingsを開きます。
- Impact LXのポートを画面例の通りに設定されます。ポートが表示されない場合は画面下の“Rescan devices”をクリックします。
- Outputの欄で、Windows = MIDIOUT2 (Impact LX Mini)、Mac = Impact LX Mini (MIDI2)を選択し、Portを"155"に設定します。
- Inputの欄で、Impact LX Miniの入力ポートを有効 (Enable) にし、Controller Typeを“(generic controller)”に設定します。
- 続いて、MIDIIN2 (Impact LX Mini)を有効にし、Controller Typeを“Nektar Impact series”を選択し、portを"155"に設定します。
- 設定完了後、画面を閉じて、MIDI設定を閉じます。

以上で設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうかを確認してください。



DAW設定ガイド - FL Studio と Impact LX Mini

FL Studioでは、Impact LXを使用して以下の操作が行えます。

下表はFL Studioの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	設定なし	S1	ミキサーを開く／閉じる	Shift + Click	設定なし
◀	巻戻し(押している間)	S2	インストゥルメントを開く／閉じる	Shift + ◀	低速再生
▶	早送り(押している間)	S3	設定なし	Shift + ▶	高速再生
↺	サイクル(ループ)オン／オフ	◀ Track	前ミキサートラック選択	Shift + ↺	設定なし
■	停止	Track ▶	次ミキサートラック選択	Shift + ■	アンドゥ(Undo)
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前チャンネル	Shift + ▶	メトロノームオン／オフ
●	録音	Patch ▶	次チャンネル	Shift + ●	前面(フォーカス)以外の画面を閉じる

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、FL Studioのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

DAW設定ガイド - GarageBand

Impact LX MiniのAppleインテグレーションは、バージョン10以降のGarageBandと連動します。

設定

Impact LX MiniとGarageBandの設定は以下の通りです：

- GarageBandを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Garageband_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- GarageBandを起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- オーディオまたはソフトウェア音源トラックを作成します。

以上で設定完了です。

GarageBandの操作

GarageBandでは、Impact LXを使用して以下の操作が行えます。

下表はGarageBandの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ライブラリを開く/閉じる	Shift + Click	取り消し(Undo)
⏮	1小節巻戻し、押したままで連続巻戻	S2	Apple Loopsを開く/閉じる	Shift + ⏮	ループを前に
⏭	1小節早送り、押したままで連続早送	S3	スマートコントロールを開く/閉じる	Shift + ⏭	ループを先に
🔄	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	上のトラックを選択	Shift + 🔄	左ループポイントを設定*
■	停止	Track ▶	下のトラックを選択	Shift + ■	右ループポイントを設定*
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメントパッチ	Shift + ▶	アルペジエーターオン/オフ
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメントパッチ	Shift + ●	設定なし

*ループ/サイクルエリアがあらかじめ設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、GarageBandのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、GarageBandのマスターボリュームを操作できます。

Impact LX Miniは、Abletonインテグレーションファイルでバージョン11以降のAbleton Liveと連動します。全バージョンのLive 11と、Live 11 Suiteに含まれる機能を拡張するMax4Liveプラグインで使用できるリモートスクリプトで構成されています。

設定

Impact LX MiniとLiveの設定は以下の通りです：

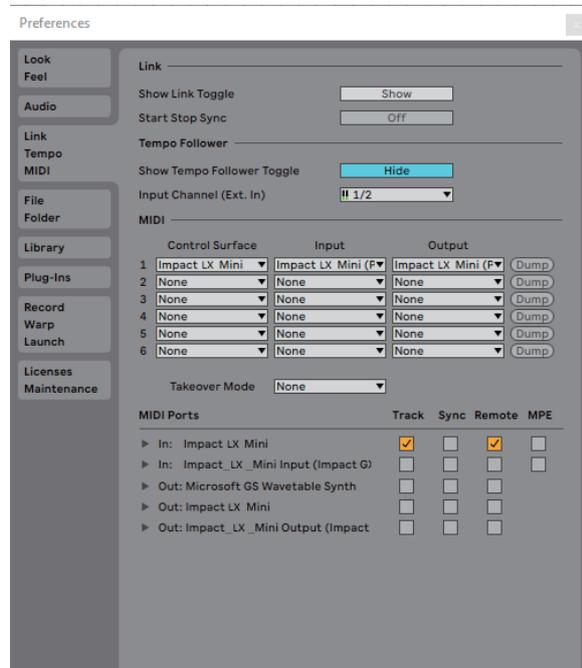
- あらかじめLiveのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはLive自体の動作に必要なファイルをインストールするための作業となります。
- 次に、Liveを終了した状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Ableton_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Liveを起動し、環境設定 (Preferences) パネルを開き、“Link Tempo MIDI” タブを開きます。
- MIDI項目の“コントロールサーフェイス”の箇所で、Impact LX Miniを選択します。
- そして、同じスロットの入力をImpact LX Mini (Port2)、出力をImpact LX Mini (Port2)、に設定します。
- さらにMIDI Portsの項目で、“In: Impact LX Mini”の箇所で、トラックとリモートの箇所にチェックを入れます。
- 完了後、設定を適用するためにLiveを終了し、再起動します。

画面例のようになっていれば、設定完了です：

macOS



Windows



DAW設定ガイド - Live と Impact LX Mini

Ableton Liveでは、Impact LXを使用して以下の操作が行えます。

下表はLiveの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	アレンジャーとセッションビューの切替	Shift + Click	取り消し(Undo)
◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	クリップとデバイビューの切り替え	Shift + ◀	ループスタートに移動
▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	ブラウザを開く/閉じる*	Shift + ▶	ループエンドに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	ループスタートを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	ループエンドを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	ブラウザ操作 - 上*	Shift + ▶	キャプチャーと再生
●	録音	Patch ▶	ブラウザ操作 - 下*	Shift + ●	録音アームのオン/オフ

*移動のみとなります。選択するにはコンピューターキーボードの“Enter”キーを押します。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Liveのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Liveのマスターボリュームを操作できます。

デバイス操作

MaxForLiveを使用しない場合、8つのロータリーノブは、一般的なMIDIコントローラーとして使用できます。

ソフトテイクオーバー

一般的に、外部コントローラーを使ってLiveのミキサーボリュームを操作した場合、実際のノブの位置とソフトウェアのパラメーターとの差異により、値がジャンプすることがあります。Impact LX Miniは、この現象を回避するため、「ソフトウェアテイクオーバー」機能を備えます。これにより、実際のノブの位置とパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ボリュームノブ直下にある2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーターの値がノブの位置と一致しない場合、左右いずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切り替えた場合、LEDの状態はそれに合わせ更新されます。

DAW設定ガイド - MaxForLive (M4L)

以下の設定と操作は、Ableton Live 11 Suite (以降) のみに関する記述です。Suiteに付属するMaxForLive (M4L) を使用することで、Impact LX Miniとの統合は、より高度なものとなります。

設定

Impact LX MiniとLive 11 Suiteの設定は、以下の通りです：

- あらかじめ、前述のLiveとLX Miniの設定を完了しておきます。
- LiveのブラウザでMax for Liveのカテゴリーを選択し、“Max Audio Effect”の項目を展開します。
- “Impact LX Mini”をマスタートラックにドラッグします。

マスタートラックに“Impact LX Mini M4L”を追加することで、LX MiniとLiveの高度な統合が実現します。Liveセットを新規で作成するたびにこのファイルを挿入する必要がないように、マスタートラックにこのImpact LX MiniのM4Lデバイスファイルを追加した状態をデフォルトのLiveセットとして保存することをお勧めします。

主な追加機能

Impact LX Mini M4Lデバイスによって、以下の機能設定が追加されます：

- **選択トラックの自動アーム** - トラックの録音アームがトラック選択で自動的に有効になります。
- **録音時のオートメーション自動アーム** - 録音時にオートメーションの記録アームが自動的に有効になります。
- **クリップレコードモード** - LX Miniの録音ボタン操作で、セッションレコーディングが実行できます。アレンジャーレコーディングではなく、クリップランチャーの録音を操作できます。
- **録音済クリップの自動トリム** - オンにした場合、セッションレコーディングされたクリップの終端は、録音停止を実行したタイミングの前小節の終わりに自動調整されます。オフにした場合、セッションクリップの録音は、録音解除したタイミングの小節終わりまで録音を続けます。
- **アレンジメント選択範囲再生モード** - オフにした場合、選択範囲の頭から再生を開始します。オンにした場合、インサートマーカーから再生します。オンとオフの違いは、Live上の再生ボタンとLX Miniの再生ボタン操作で、同じ場所から再生を開始するかどうかです。

ブラウザ操作の拡張

“Patch”ボタンで以下の操作が可能になります：

- “Patch >”ボタンを押さえたままにするとブラウザカテゴリーが右に移動します。
- “< Patch”ボタンを押さえたままにするとブラウザカテゴリーが左に移動します。
- 2つのPatchボタンを同時に押すと、ターゲットアイテムの選択が行えます。

デバイス操作

インストールメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

プラグイン設定

Liveのトラックに追加した市販のAU/VST/VST3プラグインをLX Miniの8つのロータリーノブで操作をする場合、Liveでマクロを設定しておきます。マクロを使用しない場合、以下の手順でパラメーターを割り当てする必要があります：

- Liveの右上にある“MIDI”ボタンをクリックして、MIDIマップモードを有効にします。
- コントロールしたいパラメータをマウスでクリックして選択します。
- 割り当てたいLX Miniのポットを操作します。
- 必要に応じ、上記手順を繰り返します。
- Liveの右上にある“MIDI”ボタンをクリックして、MIDIマップモードを解除します

割り当て設定の保存とリコール

Abletonの標準デバイスとMax For Liveデバイスのコントロールマッピングは、デバイスのパラメーター設定とともにLiveセットの一部として保存され、ブラウザから個別に呼び出すことが可能です。

市販のAU/VST/VST3プラグインの割り当てについては、デフォルトのデバイス設定として保存をする必要があります。手順は以下の通りです：

- 割り当て設定の完了後、デバイスヘッダーを右クリックします。
- メニューから“デフォルトとして保存”を選択します。

DAW設定ガイド - MaxForLive (M4L)

ドラムパッドによるクリップとシーンコントロール

LX Miniの8つのパッドは、Liveのクリップ (Clips) とシーン (Scenes) の演奏に使用できます。パッド横の「Clips」ボタンと「Scenes」ボタンで、各演奏モードに入ります。

クリップモードでは、選択トラックの最初から8つのクリップスロットと連動します。シーンモードでは、最初の8つのシーンと連動します。

これらのモードでのドラムパッドのLED表示は以下の通りです：

LEDの状態	クリップモード時	シーンモード時
黄	クリップがスロットに存在します	少なくとも1つのトラックにクリップが存在します
緑	クリップ再生中	シーン再生中
赤	クリップ録音中	
消灯	空のスロット	空のシーン
点滅	録音 (赤) または再生 (緑) 開始タイミングまで待機中	再生開始待機中

LX Miniは、クリップ／シーンのそれぞれで8つのバンクにアクセスし、最大64のクリップ／シーンにアクセスできます。バンクを切り替えるには、クリップまたはシーンモード時に、“Page”ボタンを押しながら、任意のパッドのいずれかを押します。例えば、クリップモードで“Page”ボタンを押しながらパッド2を叩いた場合、選択トラックの9～16番目のクリップスロットと連動します。シーンモードでパッド4を叩いた場合、パッドは25～32番目のシーンと連動します。

“Shift”ボタンとの併用で、以下のクリップまたはシーンの操作が可能です：

クリップモード時

- **選択と複製** - “Shift”ボタンを押さながら、黄または緑色のパッドを押すと、クリップが選択されます。さらにそのまま点灯していない空のパッドを押すと、選択クリップが複製されます。
- **削除** - “Shift”ボタンを押さながら、黄または緑色のパッドを2回タップすると、クリップが削除されます。
- **1小節の空クリップ** - “Shift”ボタンを押さながら、点灯していない空のパッドを2回タップすると、1小節長の空クリップが作成されます。

シーンモード時

- **選択と複製** - “Shift”ボタンを押さながら、黄または緑色のパッドを押すと、シーンが選択されます。さらにそのまま点灯していない空のパッドを押すと、選択シーンが複製されます。
- **削除** - “Shift”ボタンを押さながら、黄または緑色のパッドを2回タップすると、シーンが削除されます。
- **新規シーンの追加** - “Shift”ボタンを押さながら、点灯していない空のパッドを2回タップすると、空シーンが追加されます。

“Clips”と“Scenes”ボタンとトランスポートボタン併用で選択されたクリップやシーンに対してさまざまな操作が可能です：

Clipsボタン併用時		Scenesボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
CLIPS + Click	設定なし	SCENES + Click	設定なし
CLIPS + ⏪	選択クリップの長さを半分に	SCENES + ⏪	前シーンを選択
CLIPS + ⏩	選択クリップの長さを倍に	SCENES + ⏩	次シーンを選択
CLIPS + ↺	選択クリップのクオンタイズ	SCENES + ↺	再生クリップから新しいシーンを作成
CLIPS + ■	全クリップの再生停止	SCENES + ■	アレンジャー再生に戻る
CLIPS + ▶	クリップ再生の開始 (アレンジャー再生解除)	SCENES + ▶	選択シーンをトリガー
CLIPS + ●	選択クリップのMIDIオーバーダブ	SCENES + ●	M4Lデバイスのクリップレコード切り替え

DAW設定ガイド - Logic

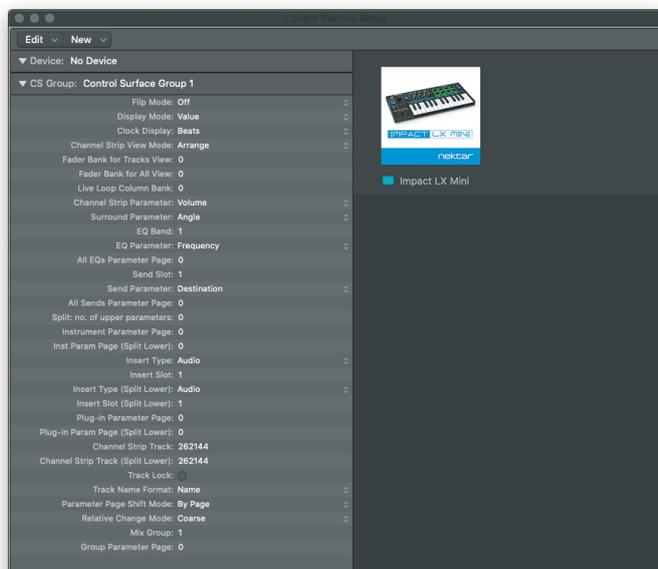
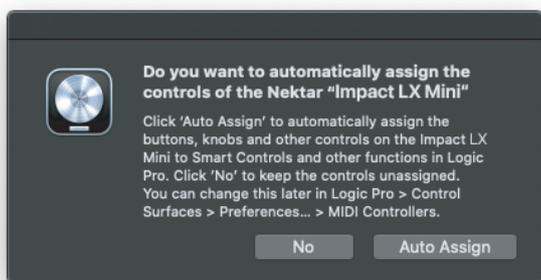
Impact LX MiniのAppleインテグレーションは、バージョン10.6以降のLogicと連動し、macOS 10.15以降の環境で動作します。

設定

Impact LX MiniとLogicの設定は以下の通りです：

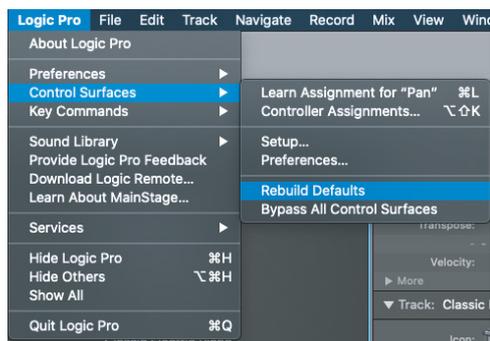
- Logicを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル: Impact_GX-LX_Mini_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Logicを起動し、プロジェクト、そして最低でもトラックを一つ作成します。
- Logicは初回起動時にコントロールサーフェスの自動認識に関する画面を表示します。問題がなければ自動割り当てを選択してください。

以上で設定完了です。



トラブルシューティング

もしも予期せぬ動作となった場合は、Logicのメニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”をお試しください。



DAW設定ガイド - Logic と Impact LX Mini

Logicでは、Impact GXを使用して以下の操作が行えます。

下表はLogicの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	取り消し(Undo)
◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	ソフトウェア音源を 開く/閉じる	Shift + ◀	左ロケーターに移動
▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	スマートコントロールを 開く/閉じる	Shift + ▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメント パッチ*	Shift + ▶	アルペジエーターの オン/オフ
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメント パッチ*	Shift + ●	録音可能

*パッチとは、LogicのAUユーザプリセットのことです。少なくとも2つ以上のプリセットがLogicに保存されている必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Logicのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Logicのマスターボリュームを操作できます。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

DAW設定ガイド - Reaper

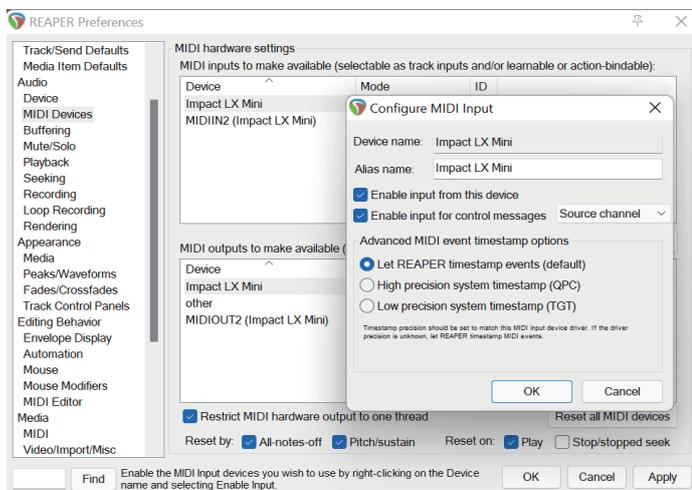
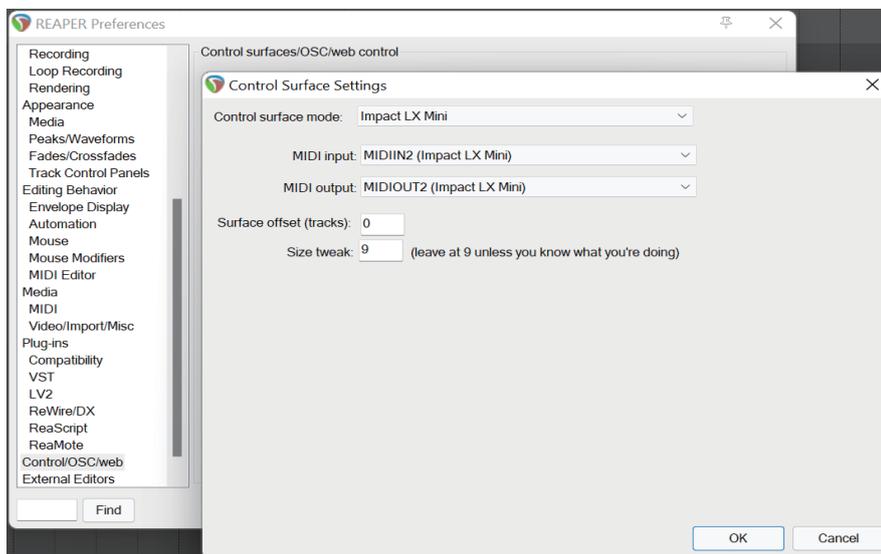
Impact LX Miniは、Reaperインテグレーションファイルで、最新バージョンのReaperと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.11以降の環境で動作します。

設定

Impact LX MiniとReaperの設定は以下の通りです：

- あらかじめReaperのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールするための作業となります。
- 次に、Reaperを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Reaper_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reaperを起動し、Optionsメニューから、Preferences > Control Surfacesを開きます。
- “Add”をクリックし、ポップアップ画面でImpactを“Control surface mode”のリストから選び、ReaperがImpactを検知し、ポート類の設定が適切に自動設定されていることを確認した後に、“OK”をクリックして画面を閉じます。
- 続いて、Preferences > Audio/MIDI Devicesで、Impactのポート1を有効にします。このモードは“Enable+Control”になっている必要があります。残りのポートはオフにします。
- “Apply”をクリックし、設定を適用します。

画面例のようになっていれば、設定完了です：



DAW設定ガイド - Reaper と Impact LX Mini

Reaperでは、Impact LXを使用して以下の操作が行えます。

下表はReaperの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	インストゥルメントを 開く/閉じる	Shift + ◀	左ロケーターに移動
▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	チャンネルストリップを 開く/閉じる	Shift + ▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル (ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメント プリセット*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメント プリセット切替*	Shift + ●	選択トラックの 録音待機 (アーム)

* パッチとは、Reaperのユーザプリセットのことです。少なくとも2つ以上のプリセットがReaperに保存されている必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Reaperのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

ソフトテイクオーバー

一般的に、外部コントローラーを使ってLiveのミキサーボリュームを操作した場合、実際のノブの位置とソフトウェアのパラメーターとの差異により、値がジャンプすることがあります。Impact LX Miniは、この現象を回避するため、「ソフトウェアテイクオーバー」機能を備えます。これにより、実際のノブの位置とパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ボリュームノブ直下にある2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーターの値がノブの位置と一致しない場合、左右いずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切り替えた場合、LEDの状態はそれに合わせ更新されます。

DAW設定ガイド - Reason

Impact LX Miniは、Reasonインテグレーションファイルでバージョン6以降のReasonと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.11以降の環境で動作します。

設定

Impact LX MiniとReasonの設定は以下の通りです：

- Reasonを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Reason_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開きます。
- “コントローラーを自動設定”をクリックし、しばらく待ちます。
- Reasonのコントローラー画面にImpact LXが表示され、“Reasonで使用する”がチェックされていることを確認します。
- 環境設定画面を閉じて、設定を終了します。

以上で設定は完了です。

DAW設定ガイド - Reason と Impact LX Mini

Reasonでは、Impact GXを使用して以下の操作が行えます。

下表はReasonの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	選択トラックのミュート	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	選択トラックの ソロ	Shift + ◀	左ロケーターに移動
▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	トラックオートメーション オン	Shift + ▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	上のトラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で 左ロケーターに移動	Track ▶	下のトラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前デバイスパッチ*	Shift + ▶	プリカウント オン/オフ
●	録音	Patch ▶	次デバイスパッチ*	Shift + ●	録音クオンタイズ オン/オフ

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Reasonのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift” ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Reasonのマスターボリュームを操作できます。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page” ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

ソフトテイクオーバー

一般的に、外部コントローラーを使ってReasonのミキサーボリュームを操作した場合、実際のノブの位置とソフトウェアのパラメーターとの差異により、値がジャンプすることがあります。Impact LX Miniは、この現象を回避するため、「ソフトウェアテイクオーバー」機能を備えます。これにより、実際のノブの位置とパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ボリュームノブ直下にある2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーターの値がノブの位置と一致しない場合、左右いずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切り替えた場合、LEDの状態はそれに合わせ更新されます。

DAW設定ガイド - Sonar (Cakewalk)

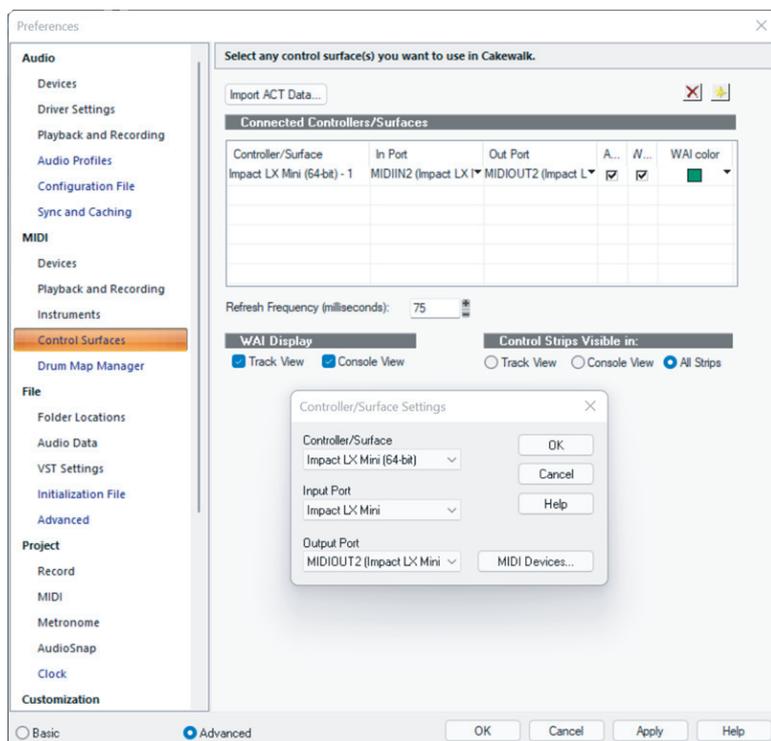
Impact LX Miniは、最新バージョンのCakewalk、およびWindows 7以降／バージョン8.5以降のSonarと連動し、動作します。

設定

Impact LX MiniとCakewalk Sonarの設定は以下の通りです：

- Sonarを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Cakewalk_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Sonarを起動して、編集 > 環境設定 > MIDIのデバイスをクリックし、設定を表示します。
- 入力の項目でIMPACTとMIDIIN2 (IMPACT)、出力の項目でIMPACTにチェックが入っていることを確認し、“適用” ボタンを押します。
- 続けてSonarの (編集 > 環境設定 > MIDI)のコントロールサーフェスをクリックし設定を表示します。
- 画面右上の黄色の星アイコンをクリックし、コントローラー/サーフェス設定画面を開き、次の通りに設定します：
 コントローラー/サーフェス：Impact LX Mini
 入力ポート：MIDIIN2 (IMPACT LX Mini)
 出力ポート：MIDIOUT2 (IMPACT LX Mini)
- 設定完了後、OKボタンをクリックして画面を閉じます。
- コントロールサーフェスが正しく設定されると画面のように表示されます。問題なければ“適用”ボタンを押し、環境設定画面を閉じます。

以上で設定は完了です。



DAW設定ガイド - Sonar と Impact LX Mini

Sonarでは、Impact GXを使用して以下の操作が行えます。

下表はSonarの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く、 二回押しで閉じる	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
⏪	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く二 回押しで閉じる	Shift + ⏪	左ロケーターに移動
⏩	1小節早送り	S3	設定なし	Shift + ⏩	右ロケーターに移動
↺	サイクル (ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生	◀ Patch	ラック内の 前インストゥルメント*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	ラック内の 次インストゥルメント*	Shift + ●	選択トラックの 録音待機 (アーム)

*インストゥルメント画面を切り替えるには、Patchボタンでまずインストゥルメントラックをナビゲートする必要があります。

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Sonarのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift” ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Sonarのマスターボリュームを操作できます。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page” ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

ソフトテイクオーバー

一般的に、外部コントローラーを使ってSonarのミキサーボリュームを操作した場合、実際のノブの位置とソフトウェアのパラメーターとの差異により、値がジャンプすることがあります。Impact LX Miniは、この現象を回避するため、「ソフトウェアテイクオーバー」機能を備えます。これにより、実際のノブの位置とパラメーター値が一致するまで変更が適用されることはありません。

ボリュームノブ直下にある2つのLEDは、ソフトウェアテイクオーバーと連動します。パラメーターの値がノブの位置と一致しない場合、左右いずれかのLEDが赤色に点灯し、パラメーター値がノブポジションよりも上か下かを示します。ノブを操作してパラメーター値とノブポジションが一致した場合、2つのLEDは緑色に点灯します。

トラックの選択を切り替えた場合、LEDの状態はそれに合わせ更新されます。

DAW設定ガイド - Studio One

Impact LX Miniは、Presonusインテグレーションファイルで最新バージョン4のStudio Oneと連動します。バージョン4.0以降のStudio Oneと連動します。ただし、最新バージョンにアップデートすることをオススメしています。

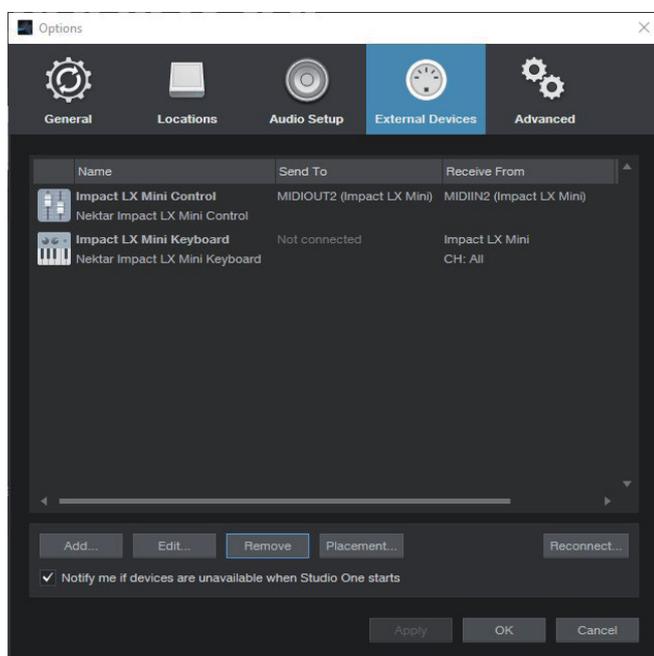
設定

Impact LX MiniとPresonus Studio Oneの設定は以下の通りです：

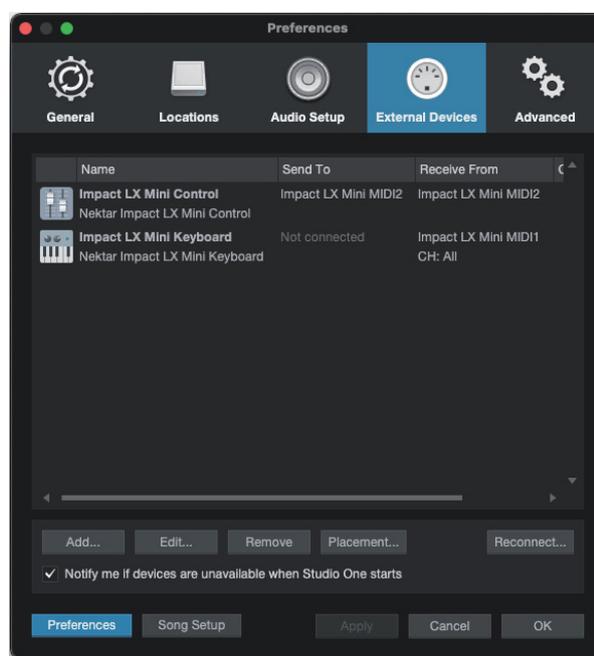
- Studio Oneを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Presonus_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact LXをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Studio Oneを起動し、“環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。ここで画面上にImpactのデバイスが2つ見えていれば、“OK”ボタンをクリックします。
- 新しいプロジェクトの作成、または既存のプロジェクトを開きます。
- Impact上の再生ボタンを押してStudio Oneのシーケンスが連動するかどうかを確認します。問題なければ設定は完了です

画面例のようになっていれば、設定完了です：

Windows



macOS



DAW設定ガイド - Studio One と Impact LX Mini

Studio Oneでは、Impact LXを使用して以下の操作が行えます。

下表はStudio Oneの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く/閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	ブラウザを開く/閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で再生	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切り替え:一つ前	Shift + ▶	プリカウント
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切り替え:一つ次	Shift + ●	入力コンタクトのオン/オフ

ボリューム操作

ロータリーノブは、選択中のトラックの音量調整に使用します。ノブを操作すると、Studio Oneのミキサー内で選択中のトラックボリュームが連動します。

マスターボリューム操作

“Shift”ボタンを押しながらボリュームノブを操作することで、Studio Oneのマスターボリュームを操作できます。

インストゥルメント操作

インストゥルメントモード時、8基のロータリーノブは選択したプラグインのパラメーター操作に使用します。“Page”ボタンで、さらに8つのパラメーターの操作が可能です。割り当ては、選択中のデバイスに依存します。

選択トラックのインサートエフェクトを操作する場合は、さらに“Shift”ボタンを押しながら、“Page”ボタンを押すことで、選択トラックのチャンネルエディターを前面にします。以上でLX Miniの2つのページで合計16のパラメーターを扱うことが可能です。



操作対象のインサートエフェクトの切り替えは、“Shift”がオフになっていることを確認してから、“Instrument”ボタンを押しながらトランスポートの早送りまたは巻戻しボタンを押します。インストゥルメントコントロールに戻るには、もう一度“Instrument”ボタンを押してください。

Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポート設定

前述の通り、Nektar DAWインテグレーションファイルによって、Impactのトランスポートコントロールは自動でDAWのトランスポートの操作に割り当てられます。一方、お使いのDAWがこれに対応していなくても、ImpactとDAW側でMIDI Machine Control (MMC) の設定を行うことで、トランスポートコントロールが可能となる場合があります。

以下の操作で、Impact LX MiniはMIDI Machine Control (MMC) 情報を扱うことが可能になります：

- “Shift + Internal” ボタンを押し、“Internal” ボタンが点滅していることを確認します。
- Impact LX Miniの鍵盤：A2 (USB Port Modeと印字されています) を押します。
- 鍵盤：G#1 (3とパネル印字されています) を押します。
- 鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) を押して、設定を適用します。

以上で、Impact LXは下表の通りのMMC情報を送信することができます：

ボタン	機能
Click	設定なし
◀◀	巻戻し
▶▶	早送り
↺	設定なし
■	停止
▶	再生
●	録音

DAW設定ガイド - Pro Tools

Avid Pro Toolsでは他のDAWと異なり、インテグレーションファイルを使用しません。Impact LX Miniからトランスポート操作をする場合、Impact LX MiniとProToolsの両方をします。

Impact LX MiniをProToolsモードに設定します：

- Shift + Internalボタンを押し、Internalボタンが点滅していることを確認して、鍵盤：A2 (USB Port Modeと印字されています) を押します。
- 数字"4"がラベル印字された鍵盤を押してから、鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) を押して、設定を適用します。

Pro Toolsの設定以下の通りです：

- ProToolsを起動し、”設定”メニューから”ペリフェラル”を選択し、MIDIコントローラータブのクリックで設定画面を開きます。
- MIDIコントローラ画面で次の通りに設定します：
 - タイプ = M-Audio Keyboard
 - 受信元 = Impact ... MIDI 2 (OSX)、MIDIIN2 (IMPACT ...) [エミュレート] (Windows)
 - 送信先 = Impact ... MIDI 1 (OSX)、IMPACT ... [エミュレート] (Windows)
- 設定を終了したら、”OK”ボタンをクリックして画面を閉じます。

以上で設定完了です。“Instrument”ボタンを押すと、8つのエンコーダーで現在のバンクの各ミキサーチャンネルのボリュームをコントロールします。

設定を完了すると以下の機能にアクセスできます。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	設定なし	S1	選択トラックのミュート	Shift + Click	設定なし
◀◀	巻戻し	S2	選択トラックのソロ	Shift + ◀◀	プロジェクト頭に戻る
▶▶	早送り	S3	設定なし	Shift + ▶▶	プロジェクト 終端に移動
↺	他のボタンとの併用に 使用します	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	設定なし
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	アンドゥ (Undo)
▶	再生	◀ Patch	表示を1バンク (8トラック) 分、前にジャンプ	Shift + ▶	ループ再生
●	録音待機	Patch ▶	表示を1バンク (8トラック) 分、次にジャンプ	Shift + ●	ループレコーディング

www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar